

日本産業衛生学会

関東地方会ニュース

(題字 高田 昴筆)

発行所/日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒105-8461東京都港区西新橋3-25-8

東京慈恵会医科大学環境保健医学講座内・TEL(03)3433-1111 内 2266・FAX(03)5472-7526・発行責任者/清水 英佑



赤松の雄姿に魅せられて—長野の善光寺にて (写真提供 鶴岡 寛子)

産業保健の動向と本地方会活動

相澤好治 (北里大学医学部衛生学・公衆衛生学)



過去の高度経済成長が望めないわが国は構造・行政改革により、より小さい政府を目指している。また産業界では、需要の多様化にともない、毎年数千の新しい化学物質が製造されている。

この現状を考えると、行政が職場で使用される化学物質の安全性を検証し、その各々に規制をかけることは不可能になると思われる。したがって、企業が自己責任の下に化学物質の管理を行うことが求められ、産業保健職に対して助言を求められる機会が多くなると推測される。産業保健職は普段からそれらの知識の涵養に努め、化学安全衛生情報の検索方法やリスクアセスメントの手法を習熟しておく必要がある。これから

は単に法規に明るいだけでは不十分で、常に新しい動向と知識を習得することが求められると思われる。

その意味で本学会地方会の活動は重要であり、例会への参加により最近の労働衛生の動向や、知識を習得することが必要である。また学会は講演やシンポジウムだけでなく、実学的な手法や知識を伝達する講習会などを開催することも必要と考えられる。産業保健職に求める企業側のニーズが何かを把握することも重要と思われる。その要求に十分応えられないままでは、産業医をはじめ産業保健職の存在価値が低下し、現今の厳しい経済状況では、安定した地位を保てない可能性もあろう。学術的活動に加え、科学に基づいた実践的活動も本地方会に求められていると思われる。

二期目に入る清水英佑地方会長の下で、関東地方会が新しい活動を展開してゆくことを大いに期待したい。

新春おめでとうございます

地方会発展のために

清水英祐 (地方会長)



関東地方会の皆様には新年を迎えられ心よりお慶び申し上げます。21世紀の幕開けは暗い話ばかりでしたが、内親王様のご誕生が吹き飛ばしてくれたことと思います。

さて、関東地方会ニュースも今回で第5号となりますが、3000人を擁する会員相互のコミュニケーションの場として少しでもお役に立っていただければ幸いです。これも伊藤岩美編集委員長はじめ編集委員のきめ細かな作業のたまものと深く感謝申し上げます。

関東地方会のこの1年間の活動の中で大きな進歩がありました。産業医部会、産業看護部会および産業衛生技術部会がそれぞれ地方会の部会活動として正式に発足したことであります。関東地方会会員の中には多数の産業医がいるにもかかわらず、産業医部会はこれまで地方会独自の活動を行って来ませんでした。

第11回産業医・産業看護全国協議会が埋忠洋一企画運営委員長により昨年秋に開催されましたが、そのための準備段階から本格的な地方会産業医部会として活動が始まったかと思えます。これからは産業医専門職としての質的向上と地位の向上を目指して活動の充実を図っていただきたいと思います。

また、産業看護部会はこれまで研究会として地道に活動を行ってきましたが、全国協議会の準備取り組みの中で関東地方会全体の組織化が必要とされ、研究会として細々として行っていた活動から地方会産業看護部会としての活動になりました。これからは産業看護職の専門性の向上と組織化、地位の認知と向上に向けて活動を活発化させていただきたいと思えます。

一方、産業衛生技術部会は、全国レベルでも発足したばかりではありますが、若さあふれる集団であり、地方会技術部会としてどのような活動をするのが期待されます。今後はこの3部会が独自に、時には合同で研究会を開き研鑽を積んでいただければ、関東地方会の発展に大いに寄与するものと思えます。

新春おめでとうございます

産業保健スタッフへの応援

村上正孝 (茨城産業保健推進センター所長)



株価の暴落、購買力の低下、リストラの実行など事業主を取り巻く経営環境は極めて厳しいものがあります。このような逆境のときこそ、働く者の意欲をかき立て、事業展開の知恵を作り出す快適職場の確保が大事です。

ISO14000のホームページを開けると、茨城県においても認証を取る企業が急速に増えていることを知ります。未来志向の事業主は、その場しのぎの対策のみでなく、将来まで見据えてマネジメントシステムを経営の根幹に据える努力をされていると敬意を表します。

我々産業保健に携わる者は、まさに彼らを心の底から支えねばなりません。何故ならば、企業活動は、これに関わる者に生きがいと幸福をもたらすために営まれているからです。幸福、別の言葉で言えばリスクのない職場、しかも利益の上がる事業であるべきです。

作業に関連した健康障害は腰痛、上肢障害、疲労による障害、メンタルヘルス不全など数え上げたらきりがありません。一度、職場でケースが出れば上から下まで、なんと暗い雰囲気にも包まれるか誰でも分かることです。

ですから、産業保健スタッフは笑顔を絶やさないだけでなく、目を皿にして事が起こる可能性を、日常の忙しさに紛れているラインに対して目を光らせる責任があります。

私ども推進・地域の産業保健センターは、産業保健に関わるスタッフの活動の一助となるべく待機し、活動している次第です。

世の中が厳しくなればなる程、産業保健活動への期待は大きくなるものだと新年に当たって考えます。



新春おめでとうございます

若い会員の皆さんへ

野見山一生(栃木産業保健推進センター所長)



皆様には新しい年を迎えられ、益々、お元気にご活躍のことと存じます。

産業医学の研究、教育、実践に、40年ほどの間、忙しいけれど楽しい充実した日々を送らせて戴きました。

少しでも働く人々の健康を守るお役にたてるような仕事をしたいというのが産業医学の道に進んだ理由でしたが、良い指導者、先輩、友人、教室員、そして良い医学生に恵まれ、伸びやかに教室や研究室で、また、事業場で仕事することを許されたことを感謝しています。

自治医大定年退職後も栃木産業保健推進センターで、気心の知れた地域産業保健センターの仲間や推進センター職員に支えられて、ポチポチと働く人たちの健康を守る仕事をしています。有難いことです。これからも何ごとにも感謝しつつ、少しでも社会に報いることができるよう努力してゆきたいと思っております。

若い会員の皆さんに何か一言ということですので、年寄りの立場から、少し追加をさせて戴きます。

産業医学は実学ですから、1) 現場も知らないで研究室に籠もってしまっただけではいけません。機会を捕らえて現場に出ましょう。現場に出れば、研究テーマは幾らでも湧き出てきます。2) 現時点の問題を解決することも大切ですが、現場に出れば、数年先にどんな問題が起こるかも見えるはずですから、前もって調査研究、必要に応じ、実験研究もし、予防することはもっと大切な仕事です。また、3) 東南アジアやアフリカには工業化の途上にある国が少なくないのですから、今のうちに現状調査をし、早めに、将来の健康問題発生を予防する手だてをうっておくことも大切な仕事です。

若い皆さんの健康とお仕事の発展を祈念しています。

新春おめでとうございます

人災と産業保健

神山照秋(群馬産業保健推進センター所長)



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、ご家族揃って清々しい新年をお迎えになられたことと慶び申し上げます。さて、昨年ニューヨーク市の世界貿易センタービルへの同時多発テロで、5,000余人が死亡するというショッキングな事件があり、わが国でも新宿歌舞伎町のビル火災では40数人が焼死するといった痛ましい出来事もありました。

これらの事件の要因はいずれも人間そのものであり、不可抗力な天災ではなくまさに人災でありましてこのような不幸な事件を二度と起こさせない手だても、そこにある筈であります。

人災という視点から考えますと労働災害にも当てはまります。

産業保健推進センターと地域産業保健センターは勤労者の健康確保を図るための施設として設置されたものでありますが、行政や医師会関係者の中でも両者を正確に区別して認識している方は、意外と少ないようであります。

まして一般勤労者では地域によっては、その存在すら知られていないのが現状であります。

国(厚生労働省労働局)から委託され郡市医師会単位で主に50人未満の事業場を対象に活動しているのが地域産業保健センターで、労働福祉事業団が各県に一ヶ所宛設置し、県医師会と協力して産業保健に関する広報啓発に従事しているのが産業保健推進センターであります。

日本産業衛生学会関東地方会会員の皆様には、事情ご賢察の上私達の業務活動にご協力頂きたく、年の初めに改めてお願い申し上げます。新年の挨拶とします。

日本産業衛生学会関東地方会会員の皆様には、事情ご賢察の上私達の業務活動にご協力頂きたく、年の初めに改めてお願い申し上げます。新年の挨拶とします。



新春おめでとうございます

調和を求めて新しい旅立ちを

沖野哲郎(埼玉産業保健推進センター所長)



調和を求めての新しい旅立ちの年であって欲しい。新しい秩序を求めて、と言ってしまうには、人類はまだ未熟だと言わざるを得ない。まだと簡単に言ってしまったが、果たして今後成熟への進化の道筋を人類は辿れるのかすら私には予見できない。期待はあるが。

秩序とは物事の条理とのことだそうだ。正しい道筋を順序立てて進めることも言う。何が正しいかで、揉めているのが今の我々だが、せいぜいの所、おおむね正しいといったところだろう。しかし対立すると途端にどちらかが正しい、正しくないとなる。

小異を捨てて大同につく。ということばがある。人類は集団で行動することによって、他の種より優位を保ってきた。集団行動の選択には、確かに大同につくことが要求され、また有利に作用してきたであろう。

だが今求められているのは、そうやって捨て去られてきた小異は、果たして捨て去ってしまっているものだったかという省察ではなからうか。

DNAレベルでみて、またひとりとして同一環境で生育し得ない以上すべての人はユニークである。一般にユニークであることは、他の尊敬やあこがれの的となる。しかしメンタルヘルスの場面ではどうだろうか。まわりとは違う、理解できないなど不安の対象としてむしろ排除されてしまいはしないか。

「違いがわかる」好きなコマーシャルである。問題は違いが許容できるかである。

調和とは、いくつかのものが矛盾なく、互いに程よく和合すること。と広辞苑にある。捨てがたいユニークさを持った一人ひとりをお互い大事に思うことは、今の未熟なわれわれでも到達可能な目標ではなからうか。

調和をアメリカでは harmony, OK. フランスでは D'accord と受けとってくれるか。

交流分析では、私も OK, 他人も OK の対人的構えがいい人間関係をつくりやすいという。違いが許容できれば、むつかしくない。

交流分析では、私も OK, 他人も OK の対人的構えがいい人間関係をつくりやすいという。違いが許容できれば、むつかしくない。

新春おめでとうございます

問われる産業保健の真価

加藤繁夫(千葉産業保健推進センター所長)



多くの期待と鳴り物入りで迎えた新世紀でしたが、平和に慣れきった我々には想像だにできなかった大規模多発テロ事件で、大変な幕開けの年になりました。

日本経済の低迷は、我々産業保健に携わる者にも次々に大きな課題を投げかけてきます。しかし、リストラされる労働者に対する我々の方策は皆無ですし、労働態様の多様化によって、かつては保護規定であった筈の様々な規制も緩和される一方であり、本当にこれで良いのかと思っはみるもののやはりご時世かと思守るばかりです。

そして、専らの話題といえばメンタルヘルスケアと生活習慣病対策であり、健康診断の有所見率が毎年上昇しているのを嘆いているだけというのが残念ながら現状ではないでしょうか。

最近さかんにEBMという言葉が使われていますが、この十数年、我々が呪文のように唱え続けてきた心と体の健康への取り組みは一体どのように評価されるのでしょうか。今日の事態は紛れもなく我々に突きつけられた十数年間の成績表ではないでしょうか。

次々に現れる新しい話題に飛びつき、そして振り回されて、十分な総括をしてこなかった結果だといわれても一言もありません。きちんとした結果を出さなければ誰からも相手にされなくなるのは自明の理です。今こそ、反省だけではなく実効を挙げなくてはならない時であり、また、産業保健の真価が問われている正念場ではないでしょうか。

新春早々から後向きのお話で申し訳ありませんが、改めて我々センターに課せられている責任の重さを痛感しています。皆様方の一層のご支援をお願い致します。



新春おめでとうございます

21世紀における産業保健ネットワークづくり を目指して

佐々木健雄(東京産業保健推進センター所長)



日本産業衛生学会関東地方会の会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

日頃より、産業保健活動の推進並びに東京産業保健推進センターの業務運営に

ご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

当推進センターも平成10年6月に設置されて以来3年半あまりが経過し、やっとその活動が軌道に乗り始めたところです。これもひとえに産業保健活動に携わる方々のご理解、ご協力の賜物と改めて感謝申し上げます次第です。

さて、近年では何らかの所見を有する労働者の割合が4割を超すなど、急速に進展する高齢化社会を目前に控え、我が国の健康づくり対策が十分産業界に定着しているとは言えない状況にあることも事実です。東京における産業保健活動の主要な目的は、働く人々の心と身体の病気の予防にあります。このためには、各企業が自らの社員に対して健康に関する正しい知識を持たせ、生活習慣の改善を図らせるような確かな指導を実施していくことが重要です。

当推進センターでは、産業保健スタッフの方々に対する一層の支援を行うため、東京労働局、東京都医師会のご協力をいただきながら、あらゆる産業保健関係機関との連携を深め、産業保健ネットワークづくりを進めていくこととしております。また、私ども推進センターの業務を一人でも多くの方々に知っていただき、ご利用していただくことも重要な課題であります。皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後となりましたが貴会の益々のご繁栄と会員の皆様方のご健勝を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春おめでとうございます

知識でなく知恵を探る

石渡弘一(神奈川産業保健推進センター所長)



あけましておめでとうございます。

新年の夢物語ではなく、センターで悩んでいる現状を申し述べる。

県下の労働状況は50人以上の事業所は12.1%と全

国統計より多いが、労働者数は121万人(45.4%)で、147万人(54.6%)は49人以下の事業所で働いている。産業保健の実態は平成11年度の1,281事業所(回収率50.1%)の調査で、66.6%は製造業であるが、産業医選任は1,000人以上規模の事業所では100%であるが、従業員100~299人規模で91.9%、50~99人では82.1%にとどまる。また看護職の選任は前者で24.7%、後者では14.5%で、一般健康診断の事後処置をはじめとする産業保健の恩恵にあずからない労働者が少なくとも約20%はおり、49人以下では実態をつかみきれない。

一方平成12年労働安全衛生調査によると、産業医選任率は従業員100~299人で87.6%、50~99人では67.8%と神奈川よりさらに低い。参考までに49人以下の規模では12.2%である。

一般定期健康診断の実施率は平均85.4%であり、30~49人規模で9.6%、10~29人で17.7%は実施していない。結果通知は95%と良好であるが、就業上の措置、保健指導の実施は10~20%にとどまり、不況のなか、中・小規模事業主に理解をうる努力がセンターの課題である。

さらに溶接、塗装など有害業務の人材派遣による下請け化が広がり健診実施の問題や高年齢・女性労働者の対応も急務である。将来に向けた研究も大切であるが、実学のフィードバックを待っているのもこの分野である。



第214回例会および 第45回見学会

新津谷真人 (北里大医)

第45回見学会・第214回例会が、8月3日・4日に相模原市医師会との共催により神奈川県で開催された。参加者は見学会が139名、例会が105名だった。見学会では、新キャタピラー三菱株式会社相模事業場、日産自動車株式会社 生産事業本部相模原部品センター、住友スリーエム株式会社相模原事業所の3ヶ所を訪問させていただいた。その後、相模原南メヂカルセンターにおいて、横浜市立大学医学部衛生学教授土井陸雄先生の座長により、「職域における個人情報保護」と題する特別講演を東京大学医学教育国際協力センター講師水嶋春朔先生にお願いした。また、懇親会の後には、聖マリアンナ医科大学予防医学教室講師杉森裕樹先生、北里大学医学部医学原論研究部門講師齋藤有紀子先生、NKK 京浜保健センター若林三津子先生の進行により、「職域における個人情報の取扱いについて」と題するワークショップが行われ、三和銀行東京健康管理センター及川孝光先生、エクソンモービルビジネスサービス有限会社森見爾先生にも御発言いただいた。翌日の例会では、ワークショップ報告会の後、北里大学医学部衛生学・公衆衛生学教授相澤好治先生、北里大学医療衛生学部公衆衛生学教授門脇武博先生の座長により、「職場における化学物質管理の今日的課題」と題するシンポジウムが行われた。シンポジウムでは、「化学物質管理」について中央労働災害防止協会技術支援部部長小野宏逸先生、「化学物質過敏症」について北里研究所病院アレルギー科客員部長宮田幹夫先生、「職業性喘息」について国立相模原病院臨床研究センター秋山一男先生、「労働衛生保護具」について北里大学医療衛生学部講師田中茂先生よりお話をいただいた。2日間とも大勢の参加者が活発に質疑、意見交換を行い、大変有意義な見学会・例会だった。

見学会・一泊例会を終えて

相澤好治 (北里大医)

8月3日、4日の2日間、神奈川県で伝統ある一泊例会のお世話をさせて頂いた。県内の学識経験者、

産業医、産業看護職からなる実行委員会を組織し、貴重なご意見を頂き、何とか無事に終わることができ、関係各位のご厚情に感謝している。清水英佑地方会長と鈴木勇司幹事長をはじめ事務局の方々には殊の外お世話になり深謝している。

また相模原市医師会の共催により、交通に便利な相模大野駅付近の南メヂカルセンターを会場として利用させていただくことができたことは、参加者のアクセス面でも経済的にもよかったと思っている。新宿から約40分の距離であったこともあり、参加者のうち、ホテルに泊まった方はごく少数であり、1日ないし2日通って参加された方が多かった。今回は1日目の懇親会の後、一泊される方のために個人情報に関するワークショップを開いたが、終了後も帰宅することが可能であった。場所によっては一泊でなく一日間の夏季例会としてもよいと感じた。

また一泊例会の1日目に例年通り、見学会を行ったが、一番心配した点は例年のない暑さであった。短時間ではあるが暑さのため体調をこわしてしまう参加者がいないよう願っていた。幸い当日は、やや暑さが緩み何事もなかったのが、スタッフ一同胸を撫で下ろした。春や秋などもっと気候のよい時期に見学会を行う方が、会員諸氏の健康確保の面でよりよいのではないかと感じている。

第15回国際夜勤交代勤務シンポジウム

—交代勤務管理の新戦略をめざして—

小木和孝 (労研)



わが国で19年ぶりに国際夜勤交代勤務シンポジウムが去る9月開催された。このシンポジウムは国際労働衛生学会 (ICOH) の交代勤務委員会により2年おきに開催されており、今回は葉山の湘南国際村で9月10日から13日まで「交代勤務管理の新戦略」を主テーマに開かれた。27ヶ国から185人が参加し、3食つき、1会場のみ伝統に従って、内容の濃い討議が行われた。革新的な交代制など多様化している夜勤条件に生体リズム研究の成果をどう役立てるかが国際的な課題であることがあらためて確認された。

このシンポジウムは国内組織委員会が主催すること

になっていて、22名の委員と若手研究者9名の事務局員が企画と運営に当たった。招待講演と一般発表を7つのセッションに分けたプログラムだったが、いずれも質の高い内容で、今の各国共通の問題点がよく現れていた。まとめると、1) 多様化し弾力化がすすむ交代制の編成基準、2) 交代勤務による安全と健康リスク評価と対策、3) 高齢化、家庭責任、キャリアなどの個人特性への配慮、の3領域に論点が集中していた。新戦略軸としては、一方で休日休暇や夜勤負担管理も含めた柔軟な勤務編成基準があり、他方、夜勤事故や循環器障害などを含めたリスク管理をきめ細かくすすめる対策が注目されていた。夕食後に行われた「24時間社会」をめぐるディベートで、生活軸が24時間体制に大きく移行しながら、健康と社会コストが多くなると、人間中心視点の継続改善が方向となることが浮き彫りになった。おりしも会期中に台風の三浦半島上陸、直後の米国テロ多発があって、リスク対策の重要性がすばらしい印象となって残った。現場参加型のリスク管理手法が大事なことを交代勤務のような労使協力の欠かせない領域であらためて感じさせた。

第11回産業医・産業看護全国協議会報告

加藤登紀子 (企画運営副委員長)

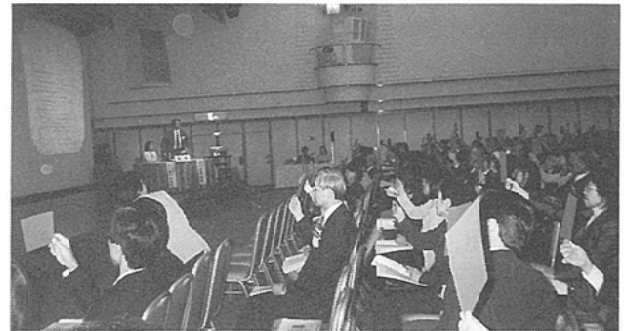


去る10月19日(金)～20日(土)、第11回産業医・産業看護全国協議会が開催された。晴天に恵まれ、京王プラザホテル(新宿)の快適スペースに563名が集い、メインテーマ「健康管理のモラル、論理、技法」に沿った会長講演、ワークショップ、シンポジウム、全体集会などのプログラムを通して親しくディスカッションが交わされた。また産業医部会、産業看護部会の総会も行われた。

埋忠委員長による会長講演「労働生活と健康日本21」では、個人に、企業に、そして国に、健康をいかに返せるか、ヘルスプロモーションの成果をあげることが我々の課題とした上で諸々の角度からテーマに言及された。この場合の健康とは「健全に生きる」ことも意味しているように思われた。

ワークショップ3題(「IT活用」、「THP関連」、「プライバシー保護」)では若手～中堅の活躍が大変頼もしく感じられた。ワークスタイルが多様化している現状で

は、対個人のみでなく企業に対する組織的なアプローチをし、企業活動としての健康管理のあり方を定着させておくことが重要だと痛感した。



全体集会では、日常業務の中でも考え方の分かれる7テーマについて各演者から問題提起された後、会場全体で討論し、賛否の色紙を参加者全員が同時に掲げ、壮観で痛快なセッションとなった。今後もこのような企画をお願いしたいと感じた。

シンポジウム2「心の健康づくりにおける4つのケアと産業看護職の役割」には看護職を中心に約300名が参加し、心の健康づくり活動には看護の機能が不可欠であることを再認識した。

シンポジウム3「健康教育の方法」では、行動変容の理論、行動科学的に見た健康教育のポイント、保健指導の技術を常に研鑽し、対象(集団)に最適な方法を選択してこれらを論理的に組み立ててPDCAを展開できる能力をもつことが我々の社会契約的良識であると感じた。

産業看護部会には100名以上の方々が参加され、継続教育、研究、広報などの活動を今後も推進していくことが確認された。また本協議会で産業看護職実力アップコースの単位認定を受けた看護職は約160名に達し、どのように研修を蓄積していけばブラッシュアップできるかという、ひとつの道筋ができたと考えられた。

参加者の収穫はさまざまであろう。しかし多くの仲間と交流し、リフレッシュし、仕事への新たな情熱を感じていただいたと信じている。関係者、参加者のみなさまにこの場を借りて感謝申し上げます。



第11回産業医・産業看護全国協議会は、埋忠洋一企画運営委員長、三好裕司・加藤登紀子企画運営副委員長のもとで開催されました。(編集委員会)

第60回全国産業安全衛生大会総合集 見聞録

市川正明 (中災防)

平成13年10月17日、21世紀初の全国産業安全衛生大会が、皇太子殿下のご臨席のもと、日本武道館で開かれた。今大会は、昭和7年の第1回開催以来、通算60回目を数え、全国から集まった参加者、関係者は1万1,500人にのぼった。



椎谷正・中災防理事長の開会宣言に続き、今井敬・中災防会長の式辞では、労働災害で今なお、年間2,000人近くの尊い命が失われていることが改めて指摘され、また、産業廃棄物処理施設でのダイオキシン類問題や、IT化の進展と国際的競争の激化等に伴うメンタルヘルスの問題など課題が山積みされ、かつ経済情勢の厳しい中にあるが、働く人の安全と健康の確保に向け、関係者が一体となって労働災害防止に取り組む必要があることが強調された。

皇太子殿下からは、「労働災害の防止と安全衛生水準の向上のためにたゆみない努力を続け、健康で安心して働くことのできる快適な職場づくりに寄与することを期待する」とのお言葉があった。



続いて、内閣総理大臣、厚生労働大臣からの祝辞があり、最後に、三善信一・東京労働基準協会連合会会長の挨拶があった。引き続き顕功賞、中災防会長賞、緑十字賞、安全・衛生・快適考案、安全衛生活動コンクールの各受賞者の表彰式が行われた。この後、大会

宣言が読み上げられ、満場の拍手で採択されて総合集会は終了した。

なお、来年度の大会は、平成14年10月23日～25日の会期で福岡（マリンメッセ福岡ほか）で開催予定。

第4回産業衛生技術部会大会報告

原 邦夫 (労研)



第4回目の産業衛生技術部会大会が、10月17日、全国衛生管理者協議会の後援をうけ、全国産業安全衛生大会の緑十字展会場内（東京都・流通センター）で行われた。メインテーマは「企

業衛生管理グループからの提言と産業衛生技術部会が発信できること」で、120名の参加で意見交換がなされ、有意義なものとなった。

午前中のラウンドテーブル「産業衛生の課題を巡って—今日の産業衛生の課題を明らかにし解決策を探る」では、現場の労働衛生を担っている5名から、経験を基にして重要な課題提起と技術部会への要望が示された。とくに、(1) 自主管理システムとヒューマンエラーの課題提起から、企業内衛生活動では問題解決を示すことが重要であること、今後ヒューマンエラーは技術部会の取り組むべき課題であること、(2) グローバル化や国内産業の再編の中での今後の健康管理・衛生管理では、法で縛るやり方か自主的なマネジメントに任せるのかのどちらかに統一すべきであること、(3) 特に物理的エネルギーのリスクアセスメントに係わっては統一的なリスク判定の評価指針がなく技術部会の技術的貢献が必要であること、(4) 化学物質の自主管理では、個人曝露の連続測定が可能でその場で濃度確認が可能で小型機器の開発が必要であること、化学物質の有害性の程度を示す包括的な分類表の作成が必要なこと、(5) 中小企業での課題としては、外部の支援機関(技術部会もその一つとして)の充実が必要なこと、などであった。午後のシンポジウム「21世紀を迎えた産業衛生研究の現状と課題」では、4名の技術部会メンバーがそれぞれの専門分野の研究の到達点を紹介した。参加者とのやりとりでは、技術部会の研究成果を広く紹介すべきであること、技術部会としての独自事業を早急に実施すべきであることを感じさせるものとなった。

理事会報告

清水英佑 (慈恵医大)

開催日：平成13年10月6日および12月1日

1. 産業技術部会規定は他の部会との整合性をとることとした。
2. 第77回日本産業衛生学会の開催地は、東海地方(井谷企画運営委員長)が担当する。
3. 所轄官庁の公益法人定期検査で、①職員の就業規則 ②会計処理規則、③職員の牽制体制、④内部留保と公益事業規模、以上4項目の改善勧告案が出された。
4. 法制度検討委員会について答申が出された。
5. 平成21年国際労働衛生会議の日本開催招聘について、推進委員会準備会を設置する事とした。
6. 地方会長・理事・評議員の投票結果が報告された。
7. 理事長候補として清水英佑、藤木幸雄、副理事長候補に相澤好治、監事候補に高田勲、大本美彌子(受付順)の各氏が登録された。理事長以外は定員と同数のため、理事長のみ選挙を実施することになった。
8. 専門医制度委員会より指導医 297 人、専門医 86 人、研修登録医 354 人との報告があった。また、専門医受験資格、指導医資格に関して条件緩和の改定案および委員会規則の改定案が出された。
9. インターネットで情報公開を積極的にするよう厚生労働省より要請があり役員名簿、事業報告、収支決算と予算、総会資料等を載せることにした。
10. 第75回日本産業衛生学会は神戸ポートピアで平成14年4月9日(火)から12日(金)、また13日(土)に特別研修会とした。
11. アジア地域の女性労働者の安全性会議開催に国際協力費目より60万円を援助することにした。
12. 名誉会員に皆川洋二、木村菊二、児玉泰の3氏を推薦する。
13. 学会賞に荒記俊一氏、奨励賞に浜口伝博氏、熊谷信二氏とした。

幹事会報告

鈴木勇司 (慈恵医大)

1. 黒澤栄子幹事の辞任が承認された。
2. 柳澤裕之氏と松田敏裕氏が新幹事として承認された。
3. 第214回一泊例会・第45回見学会が平成13年8月3日(金)、4日(土)に開催された(内容は第214回一泊例会・第45回見学会報告参照)。
4. 第215回例会(中館当番幹事)は平成13年12月8日(土)昭和大上條講堂にて開催された。一般演題3題。教育講演「職場における呼吸器疾患の管理、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の早期発見と管理を中心に」(永井厚志)、シンポジウム「労災保険による二次健康診断給付事業をめぐって」1)二次健康診断と特定保健指導(高田勲)、2)項目の解説とその臨床的意義(山門實)、3)産業現場における実態(三宅仁)、4)保健指導と指定保健指導、今後のあり方(相澤好治)。
5. 第216回例会(八上当番幹事)は平成14年1月19日(土)東京簡易保険会館・ゆうぼうとホールにて開催予定。「先端科学産業におけるメンタルヘルスマネジメント」とメンタルヘルス対策(小西聖子)、「職場集団に対する簡易ストレス調査票を用いた評価」(下光輝一)、「職場の抑うつ症のリスクファクター調査」(井上令一)、ビデオ映像「宇宙のマホロバ」(毛利衛)。
6. 産業看護部会産業保健研修会が平成14年1月12日(土)、女子医大にて開催された。
7. 第3回産業医研修会が平成13年9月30日(日)、中央会館ホールにて実施された。
8. 第11回産業医・産業看護全国協議会が平成13年10月19日(金)、20日(土)京王プラザホテルにて開催された(内容は第11回産業医・産業看護全国協議会報告参照)。
9. 産業衛生技術部会大会が平成13年10月17日(水)、東京流通センターにて開催された(産業衛生技術部会大会参加報告参照)。関東地方会産業技術部会研修会は、平成14年1月に開催予定。
10. 役員選出選挙が行われた(役員選挙結果参照)。
11. 関東地方会ニュース第4号が6月下旬に発行された。

研究室紹介

自治医科大学保健科学講座 環境免疫学・毒性学部門



香山不二雄

衛生学教室の野見山一生教授退官後、香山不二雄が教授に就任しました。平成11年7月には衛生学、公衆衛生学が合併して保健科学講座という1つの大講座制となり、旧衛生学教室は、

環境免疫学・毒性学部門となりました。現在、スタッフは教員4名、ポストドク1名、大学院生3名、技術員3名、栄養士2名、事務員2名の15名です。

労働衛生の分野でもダイオキシン曝露や環境ホルモン曝露が問題となっています。当部門では、CALUX法というGene Reporter Assayを用いて、簡便に測定する方法を米国の研究者と協力して開発し、労働現場の疫学調査をしています。また、大豆食品に多く含まれるイソフラボン類は骨粗鬆症の予防に有効であるといわれています。しかし、食物に微量に含まれるダイオキシンや内分泌かく乱物質などの汚染物質などが、悪影響する可能性もあります。このような要因に関して総合的に研究する必要があります。生活習慣が病気予防にどのように影響しているか、さらに人の化学物質に対する感受性は人によってどのように違うのかについて遺伝子レベルで調査しています。栄養の偏り、環境ホルモン、鉛、カドミウムなどの重金属による病気予防のための保健衛生政策をつくるために必要で重要な研究です。現在話題の環境ホルモン、ダイオキシン、カドミウムなどの曝露評価、健康影響評価に関連して、実験的研究および疫学的研究を通して行っています。



産業保健実践活動報告(第4回)

メンタルヘルス活動を通して



秋澤幸子 (NTT 栃木健管セ)

企業をとりまく環境が激変するなか労働者のストレスが社会問題化しています。当社においても、通信事業の競争激化により、組織変更が繰り返され、メンタルヘルス不全社員が増加しています。センタには毎日のように心身の不調を訴える社員が訪れ、メンタルヘルス対策は最重要課題となっています。

当センタでは昭和63年に精神相談室を開設し、産業医・産業看護職・精神衛生相談医などがチームを組みメンタルヘルス活動を進めてきました。

産業看護職は、社員の最も身近な存在として、社員や職場のパイプ役としての役割を担っています。健康診断・職場巡回などあらゆる機会を通して社員とのコミュニケーションを図り、信頼関係づくりに努めております。また、社員がいつでもセンタに気軽に相談にこられるよう雰囲気作りに努め、相談に訪れた社員の話じっくり聴くようにはしています。必要時には職場の上司や家族と連携を図り、問題解決への支援や調整を行っています。さらに、早期対応に向け地域の専門家や精神保健福祉センター・産業保健推進センターなど関係機関との連携を図っています。

このような活動を通して、産業看護職が専門性を発揮するには、

- 1) セルフケアを行うための効果的な支援能力
- 2) 職場アセスメントと問題解決能力
- 3) 関係機関とのコーディネート能力

が重要だと考えます。これらの能力をバランスよく業務の中に活かしていくことが大切だと考えています。

メンタルヘルス不全社員が増加するなか、今後益々健康管理センタの役割が重要になるが、産業看護職として知識や技術だけでなく心のこもった支援をしたいと思っております。

役員・地方会長選挙結果

平成13年9月30日

日本産業衛生学会
中央選挙管理委員会
委員長 徳永力雄 殿

関東地方会選挙管理委員会
委員長 大前和幸

平成13年日本産業衛生学会関東地方会選出役員、
関東地方会会長の選出結果を別紙のようにご報告いた
します。

以上

おめでとうございます

厚生労働大臣功労賞

櫻井治彦先生(中央労働災害防止協会)

厚生労働大臣功績賞

相澤好治先生(北里大学医学部)

柏崎 研先生(埼玉県医師会)

神山照秋先生(群馬県医師会)

能川浩二先生(千葉大学大学院医学研究院)

厚生労働大臣労働衛生推進賞

湧井忠二先生(日本労働安全衛生コンサルタン
ト会)

会員の先生方の慶事を関東地方会ニュース編集委員会事務局
までお知らせ下さい。

日本産業衛生学会役員並びに
関東地方会会長選挙結果

関東地方会選挙管理委員会
委員長 大前和幸

日本産業衛生学会関東地方会会長

投票数 1,048、有効投票数 977(うち白票 76)、
無効投票数 71

氏名	得票数
清水 英佑	535
次点 河野 啓子	37
次次点 荒記 俊一	33

日本産業衛生学会理事(関東地方会) 10名

投票数 4,192、有効投票数 3,986(うち白票 257)、
無効投票数 206

氏名	得票数	氏名	得票数
相沢 好治	296	能川 浩二	294
野崎 貞彦	283	浜口 伝博	266
河野 啓子	209	大前 和幸	205
中明 賢二	186	藤田 雄三	184
小木 和孝	177	清水 英佑	156
		次点 下光 輝一	116
		次次点 荒記 俊一	113
		次次次点 吉田 勝美	57

日本産業衛生学会評議員(関東地方会) 257名

投票数 5,240、有効投票数 4,917(うち白票 377)、
無効投票数 323

研究会開催予定

第216回関東地方会例会

日時:平成14年1月19日

会場:東京簡易保険会館(ゆうぼうとホール)

当番幹事:八上戸享司(東京簡易保険会館ゆうぼうと
健診センター)

第72回日本衛生学会

日時:平成14年3月26日(火)~29日(金)

会場:三重大学

学会長:山内徹(三重大学医学部公衆衛生学)

第75回日本産業衛生学会

日時:平成14年4月9日(火)~13日(土)

会場:神戸国際会議場、ポートピアなど

企画運営委員長:住野公昭(神戸大学大学院医学研究
科環境応答医学)

編集委員名簿

伊藤岩美 (編集委員長)
 安達修一、稲垣弘文、宇佐見隆廣、内山寛子、
 大久保靖司、沖野哲郎、川田智之、河野啓子、小峰真吾、
 鈴木勇司 (事務局)、原美佳子、廣尚典、村上正孝、
 渡辺哲

編集後記

関東地方会ニュースも第5号の発行となります。私も編集委員として作業にも少し慣れてきましたように感じます。昨年は、学会では産業衛生技術部会発足や産業医産業看護全国集会の関東地方会での開催等の明るいニュースがありました。社会では多発テロや狂牛病騒ぎなど深刻な事件が多く見られました。本年の産業衛生学会は新役員体制の下、また、関東地方会は2期目の清水地方会長の下で明るいニュースが多い年となり、当ニュースの紙面が明るい記事でにぎやかになりますことを切に願っています。なお、第6号は本年の6月に発行予定です

(大久保)

騒然とした年明けになりそうな予感の中で「新春おめでとうございます」が、ずらりと並んだニュースをお届けすることに、若干のためらいを感じながら編集後記を書いています。

7都県産業保健推進センター所長の新春の挨拶をという案が出されたとき、紙面が平板になることを恐れ異議を差し挟みかけたのですが、特殊法人見直しのさなか推進センター業務活性化のための広報のまたとない機会をみすみす逃すのは、所長としての立場上やはりまずいと思直した次第でした。新春の御挨拶の中では重複を避けるため、あえて触れませんでした。この場をお借りして学会員の皆様のセンターご利用をお願い致します。

今回で20回目の編集委員会となります。清水先生の当初のお話通りだと4～5回で済んでいた筈が、伊藤編集委員長の熱意と剛腕に煽られて、こんなにも回を重ねる羽目になろうとは。ただし、私を除く他の若いメンバーは、プロ顔負けの編集者で、いつも楽しい2時間を過ごせたことは、嬉しい誤算でした。

(沖野)

広告掲載のご案内

平成12年3月(2000年3月)から「関東地方会ニュース」を発行してまいりました。


これは清水英佑地方会長の英断により、会員間の情報交換と教育、学術面での発展を期することを目的に創刊されたものです。すでにご高承のこととは存じますが、当関東地方会は昭和10年(1935年)に当時日本産業衛生協会の社団法人化と同時に発足しております。

現在の会員数は3千数百名となり産業医をはじめ保健婦、産業看護婦、安全・衛生管理者等幅広い分野の会員で構成され、労働安全衛生に関する活発な活動を行っています。今後はさらなる紙面の充実を期しまして産業現場の出発事や事例、会員の意見、主張などを掲載する方針で編集を進めていくこととします。つきましては、是非この機会に宣伝広告媒体としてのご活用を何卒宜しくご検討ください。なお、広告の掲載をご希望される場合には、下記の申込み要領をご参照の上、事務局宛FAX等でお申込みください。

記

1. 発行形態:年2回(1月、6月発行)
2. 発行部数:3,400部
3. 判 型:A4判(297mm×210mm)
4. 平均頁数:8～12ページ
5. 印 刷:オフセット
6. 領 域:労働衛生行政/労働生理/健康診断と健康管理/環境評価と作業環境管理/産業疲労/産業精神衛生/職業性疾病と健康管理
7. 広告寸法:A4 1頁 天地25.5cm 左右17.3cm
 A4 1/2頁 天地25.5cm 左右17.3cm
 A4 1/4頁 A4 1/8頁まで
8. 広告料金:一色刷り 1頁の場合150,000円～
9. 広告申込締切日:発効日の1ヶ月前
10. 広告原稿締切日:発効日の0.5ヶ月前
11. 広告原稿:完全版下(ナマ原稿の場合は実費を戴きます)
12. 広告申込先:(社)日本産業衛生学会関東地方会事務局

明日をめざす
デジタル
カラー印刷



営業品目

ファイル・タトゥー・加工品
 シール・てさげ袋の印刷
 名刺・はがき・封筒・伝票
 チラシ・小冊子・テキスト
 報告書・マニュアル等

印刷物の発送費全般までを行っています

株式会社 小日向商事

〒105-0003 東京都港区西新橋3-18-2 オダギビル2階
 TEL:(03)3434-7052 FAX:(03)3438-2310 E-MAIL:kohinata@mb.rosenet.ne.jp